

試聴会・訪問記掲載

上新電機オーディオ試聴会 (2015.10.11) —ESOTERIC セパレートアンプの試聴—

1. はじめに

上新電機日本橋1ばん館オーディオ試聴会で開催された ESOTERIC の新製品セパレートアンプの試聴会に行ってきました。

2. 使用機器

目玉の新製品は C-03Xs と S-03 で SACD プレイヤーが K03X、スピーカーはタンノイの Kensington/GR が使用されました。C-03Xs と S-03 のリリース資料を添付しますが、GRNDIOSO の系統を引く新製品という振れこみです。

<http://www.esoteric.jp/products/esoteric/c03xs/>

<http://www.esoteric.jp/products/esoteric/s03/>



C-03Xs



S-03

2. 試聴会の進行



当日のセッティング



ESOTERIC 機器

ESOTERIC のマーケティング担当者の進行で、開発の経過を織り交ぜながら、いろい

ろなジャンルの音楽が幅広くかけられていきました。

解説では、ESOTERIC の社の成り立ち、製品開発方針と経過、トップブランドを確立するための GRANDIOSO の開発、GRANDIOSO から 02 シリーズ、02 シリーズから今回の 03 シリーズへの流れ、03 シリーズにおける技術陣の拘りなどの話がありました。

かけられた曲は、①フルオーケストラ、②フルオーケストラ、③女性ボーカル、④ビッグバンドジャズ、⑤ジャズコンボ、⑥ホルン 4 重奏、⑦男性ボーカル、⑧フルオーケストラ、⑨合唱とオルガン、⑩スイングジャズ、⑪鬼太鼓座、⑫女性ボーカルの順でした。大雑把にクラシックとその他の音楽ジャンルに分けますと、後者に開発の指向が向けられているようで、ジャズなどはスイング感があり、ボーカルものも歌手の情感が見えるようなところがありました。⑪鬼太鼓座などは大太鼓の皮の震えが伝わってくるようで Kensington が鳴っていると思えないような迫力がありました。

反面、クラシックでは、弦楽合奏の音の艶とかは、不足気味でこれがタンノイの音か？と疑うような乾き気味の音がしていましたし、ホルンも生音とは随分違う印象でした。最後にケーブルの紹介がありましたが、ヴァン・デン・フルのかなり高額な製品で固められていました。

技術的な拘りが効果を上げていた音楽ジャンルがある反面、タンノイのイメージを損なうような音もしていました。ESOTERIC だけの問題ではなく、昨今のタンノイが変化を見せていることやケーブルの選択の要因もあったかもしれませんが、日本のハイエンドの良い面と不十分な面があったと感じました。

以上